

4/17~23 やすらぎの今宮君の報告です!

「宮城野の里、災害ヒナン処”まるふく” 支援報告③」

まるふくでの活動を通じて感じたこと

支援に行く者、何かしらお役にたちたい。そう意気込んでいたのですが、何もかもお手伝いするのは間違っていました。車椅子利用者のAさん。夫婦で利用されており、主な介助は奥さんがしていたのですが、車椅子がAさんの身体に合っておらず、ズリ座りで何度も姿勢を直していました。申し送りでAさんの車椅子変更の話が出ました。いろいろ試行錯誤しAさんにあった車椅子が見つかったのですが、途中、Aさんの奥さんはとても不安そうな表情でした。支援者はAさんのためにベストと思える車椅子を用意しました。しかし、それが必ずしもAさん夫婦にとってベストとはかぎらないことに気づかされました。今後もAさんの介助をしていくのは奥さんであって、支援者じゃない。Aさんや奥さんのこと、今後生活していく家など様々なことを考えていかなければならないと。



ただ、まるふくで流していたCDに歌詞カードがなかったため、約80曲の童謡の歌詞カードをパソコンに作成しました。それが、唯一自分が残した足跡なのではないかと…。

まるふくはヒナン処、家に帰るまでの通過点でゆくゆくは新しい別のところに引越しなくてはなりません。その先が、親族や親類の家だったり、宮城野のケアハウスだったり特養だったりいろいろなわけですが。なので自分の出来ることは極力してもらいました。茶碗洗いや洗濯、花の水やり裁縫などそれぞれができることをしていました。

最期に。3月11日の地震から、さあがんばろう!!と思ったときに4月7日の地震で本当に心が折れたとの事でした。ただ、民医連や21・老福連など横の繋がりがあったおかげでいろいろな面で本当に助かったとのことでした。僕たちが出来ることは本当にわずかですが、今後も継続して何らかの形で支援を継続していくことが大切だと感じました。

おわり



建物に乗り上げた船



やすらぎの寄せ書き